修士論文（要旨）
2022 年 1 月

日本語学習におけるｍラーニングの実態
- 中国人日本語学習者と日本語教師への調査結果から -

指導　齋藤　伸子　教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
220J3002
ZHOU YI

Master's Thesis (Abstract)
January 2022

The Use of M-learning Tools in Japanese Language Learning: A Survey of Chinese Learners of Japanese and Japanese Teachers

Zhou Yi
220J3002
Master's Program in Japanese Language Education
Graduate School of Language Education
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Nobuko Saito

目 次

序章　目的と概要 1
第一章　日本語学習とｍラーニング 2
1.1　ｍラーニングの定義 2
1.2　ｍラーニング・e ラーニング・対面授業 4
1.3　最近のｍラーニング 4
1.4　ｍラーニングの現状 5
1.5　ｍラーニングと日本語教育 6
第二章 先行研究の検討 7
2.1　先行研究 7
2.1.1　e ラーニング 7
2.1.2　ｍラーニングの言語教育への活用に関する可能性 7
2.1.3　ｍラーニングの利用現状 7
2.1.4　ｍラーニングのリソースの構築・開発 8
2.1.5　ｍラーニングの継続 8
2.2　リサーチ・クエスチョン 9
第三章 ｍラーニングの活用 11
3.1　調査概要 11
3.2　アンケート結果 11
3.2.1　調査協力者の情報 11
3.2.2　協力者の日本語学習 12
3.2.3　ｍラーニングについての評価 14
3.2.4　ｍラーニングの活用 15
3.2.5　自由記述 19
3.3　結果からわかること 20
第四章　ｍラーニングと日本語教育 21
4.1　調査概要 21
4.2　学習者の視点から 23
4.2.1　学習リソース 23
4.2.2　学習者への影響 23
4.2.3　使った時の困難点 25
4.2.4　日本語授業での使用 26
4.3　教師の視点から 26
4.3.1　授業中のｍラーニング 27
4.3.2　自律学習にｍラーニング 29
4.3.3　教師の役割とサポート 30
4.4　結果のまとめ 30
第五章　考察 32
終章　まとめと今後の課題 35

謝辞 36

参考文献
資料

要旨

ｍラーニングは若者への学習機会の提供や学習意欲の向上という点で、ますます重要になると予想される。このような背景と、利便性の高い中国の通信環境に基づいたモバイル端末の普及という現状を考えると、中国におけるｍラーニングを用いた日本語教育は必須の検討事項であろう。従来の対面の教授モデル・講義から抜け出し、ｅラーニングに代わる新しい教育手法として、今後、ｍラーニングの日本語授業と自律学習への導入が進んでいくと考えられる。

本研究の目的は学習者の日本語ｍラーニングの利用実態を知ることによって、ｍラーニングが学習者にどのような影響を与えているのかを明確にすることである。また、より効果的・効率的に日本語学習を進められるようになることを目指して、ｍラーニングによる学習を言語学習ストラテジーに当てはめて分析し、ｍラーニングを日本語学習へ取り入れる方法について検討する。

先行研究を踏まえ、目的と合わせ、以下のようなリサーチ・クエスチョンを設定した。

1. ｍラーニングは学習者へどのような影響を与えるか。
2. ｍラーニングを日本語学習にどのように取り入れればいいのか。
3. ｍラーニングを利用するときの、学習者の留意するべき点と教師のサポートは何か。

本研究の研究方法はアンケート調査と半構造化インタビュー調査である。学習者の日本語ｍラーニングの利用実態について、137 名中国人日本語学習者にアンケート調査を行った。さらに、協力者のうちに、日本語学習のきっかけが違い、ｍラーニングに興味がある学習者（2 名）を抽出し、在職の日本語教師（2 名）と合計 4 人に半構造化インタビュー調査を行った。

それによって、ｍラーニングが学習意欲に影響を与えると感じており、学ぶ楽しさや意義、学習効果の三方面から、日本語ｍラーニングが協力者に概ね積極的な影響を与えるということが明らかになった。また、学習者は楽しく学ぶことを好む。。

協力者は、学習目的に応じたりｍラーニングの内容・方法を選択したほうが良いと思っている。そして、協力者は自宅でのｍラーニングを好むが、日本語授業での使用にも抵抗はないことがわかり、日本語ｍラーニングが自律学習にも日本語授業にも導入される可能性があると考えられる。

オックスフォード（1994）の言語学習ストラテジーに当てはめて分析した結果、日本語ｍラーニングにおいて、ノートを取る、他者に助けを求める、協働学習をすることは効果があることがわかった。そして、練習を行い、何度も復習し、繰り返しや自発的な取り組みが大切であることも示された。また、目標を設定し、目的によって自分のｍラーニング・気持ちを調整することの重要性も見られた。

教師のサポートについては、自律学習などの教室外の学習者主導の日本語ｍラーニングへの支援や指導は、認識が不十分であることが認識された。また、教師がｍラーニングの支援者のの役割を担い、モバイル端末の活用、ｍラーニング内容の充実、指導法などを工夫する必要があると考えられる。

本論文の不足点について述べておくと、調査対象が少なく、全体的なストーリを捉えるこ

とはできたものの、一般化することができなかった。そして、教室内の日本語mラーニングと支援者としての教師のサポートについての検討が十分ではなく、さらに研究する余地があると考えられる。

今後は、本研究の結果を大規模な調査によって検証することが必要。そして、mラーニングの読みと書きの能力への影響を引き続き調査することも必要である。また、日本語mラーニングが教室内に取り入れる方法や支援者としての教師のサポートに関する検討が不可欠であると考えられる。

参考文献

及川浩和(2009)「中国人留学生を対象としたeラーニングを活用した日本語教育に関する学習評価(情報機器の活用,21世紀の教育改革の行方を探る)」『年会論文集』(25),日本教育情報学会,pp.280-281.

及川浩和(2010)「中国人留学生を対象としたeラーニングを活用した日本語教育に関する学習評価(2)：誤用の化石化に着目して」『年会論文集』(26),日本教育情報学会,pp.304-305.

大橋敦夫 他(1992)「学習ストラテジーと日本語教育 ：学習者に対する教師の役割」『紀要』(15),上田女子短期大学,pp.107-118.

萱忠義(2013)「言語学習におけるモバイル端末の新しい活用法」『学習院女子大学紀要』(15),学習院女子大学,pp.19-29.

萱忠義 他(2020)「大学生を対象とした英語学習を支援するICT活用」『異文化コミュニケーション論集 』(18),立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科,pp.91-104.

小藪慶太郎他(2020)「m-ラーニングにおける自律型学習モデルの検討」『日本社会情報学会全国大会研究発表論文集』 21(0),日本社会情報学会, pp.34‑37.

高橋敦(2014)「グローバルネットワーク時代における「新しい日本語学習者」とオンラインコミュニティへの需要」『桜美林言語教育論叢』 (10),桜美林大学言語教育研究所,pp.139-156.

時田朋子(2012)「英語学習において英語コミュニケーション学科学生が用いるストラテジー―自律性の確立を目指して―」『dialogos』 (12),東洋大学文学部英語コミュニケーション学科,pp.135-152.

谷井宏尚 他(2007)「mラーニングにおける自律型学習モデルに関する研究」『日本社会情報学会全国大会研究発表論文集』22(0),日本社会情報学会,pp.90-93.

谷口美穂 他(2012)「日本語学習者の視聴覚メディア使用 ：インタビューからみえた教室外における自律学習の実態」『言語教育研究』(2),桜美林大学大学院言語教育研究科,pp.65-74.

長谷川聡 他(2013)「SNSの教育利用とソーシャルラーニング」『名古屋文理大学紀要 』13(0),学校法人滝川学園 名古屋文理大学,pp.51-58.

穂屋下茂 他(2013)「来日前の留学生のためのICTを活用した日本語学習教材の開発」『佐賀大学全学教育機構紀要』(1),佐賀大学全学教育機構,pp.13-22.

Keegan　Desmond(2002)「The Future of Learning: From eLearning to mLearning」.Fern Univ., Hagen (Germany). Inst.

宍戸通康・伴紀子（1994）『言語学習ストラテジー：外国語教師が知っておかなければならないこと』凡人社（Oxford, R. L. (1990) 『Language Learning Strategies: What Teachers Should Know. New York: Newbury House』）

侯睿(2015)〈移动学习在沪江网校应用的个案分析〉《宁夏大学学报(人文社会科学版)》37(02),宁夏大学,pp.192-195.

李银玲(2019)〈基于“超星学习通”的二外日语课程移动学习模式探索—以菏泽学院为例〉《菏泽学院学报》41(04),菏泽学院,pp.72-76.

彭庆霞(2018)〈移动学习在日语专业学习者中的现状分析〉《管理观察》(13),中国科学技术信息研究所;科学技术文献出版社,pp.158-159.
史小华(2015)〈高校“基础日语”课程移动学习模式探究—以 QQ 移动学习平台应用为例〉《牡丹江大学学报》24(12),牡丹江大学,pp.152-154.
王誉晓 他(2016)〈日语专业学生移动学习日语的现状与对策研究—基于杭州三高校的问卷调研〉《现代交际》(09),吉林省社会科学院,pp.183-184.
左俊楠 他(2020)〈独立学院学生自主学习平台构建—以日语专业为例〉《科技视界》(16),上海市科普作家协会,pp.30-32.
张楠(2015)〈智能移动设备在日语教学中的应用〉《佳木斯职业学院学报》(10),佳木斯职业学院,pp.428-429.

引用 URL
出典：日本の人事部『コトバンク』.モバイルラーニング
https://kotobank.jp/word/%E3%83%A2%E3%83%90%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0-802279（2012/2/27 掲載）
出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』.M ラーニング
https://www.weblio.jp/content/M%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0 (2021/08/28 20:05 UTC 版)